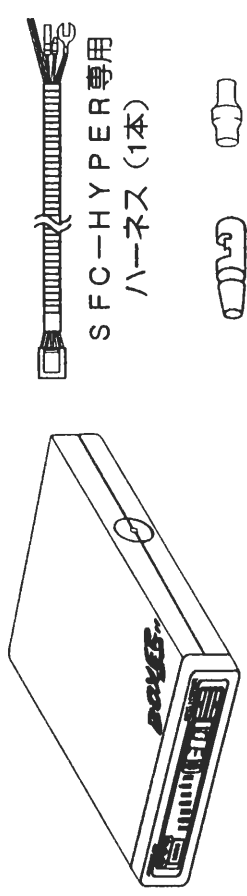


パーツリスト

お取り付けの前に、不足部品がないかご確認ください。



SFC-HYPER 本体 (1台)
 ギボシ端子オス/スリーブ (各1個)

本体取付用ネジ (2個)
 ケースラバー (2個)
 エレクトロタップ (4個)

ステータ取付用ネジ (2個)
 本体取付用ステー (1個)

取扱説明書 (本書 1冊)
 車種対応表 (2枚)
 アンケートカード
 製品保証書 (1部)

はじめに

このたびは、＜SFC-HYPER＞をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、＜SFC-HYPER＞本体の機能、操作方法、及び使用上の注意について記載してあります。又、車輻の配線は、別紙の車種対応表を参照して行って下さい。

＜SFC-HYPER＞の機能を十分にご理解いただき、安全かつ効果的にご利用いただくために、ご使用前の取扱説明書をよくお読みになり正しい使用方法で使用して下さい。

尚、本製品は、精密機器ですのでお取り扱いには十分ご注意ください。

目次

- ◇はじめに..... P1
- ◇パーツリスト..... P2
- ◇安全にご利用いただくために..... P3
- ◇機能と特徴..... P5
- ◇モータ説明..... P6
- ◇燃料調整原理..... P7
- ◇セッティングについて..... P8
- ◇各部名称と機能..... P9
- ◇配線方法..... P11
- ◇車種設定..... P13
- ◇動作確認..... P14
- ◇基本操作【1】メモリーマップの切替..... P15
- ◇基本操作【2】テータセットの方法..... P16
- ◇その他の機能..... P17
- ◇ハーステータの説明..... P18
- ◇フーストリミッター解除について(ターボ車のみ)..... P19
- ◇アラップ式エアロセンサータイプの車種..... P20
- ◇トラアルシユレーイング..... P21
- ◇サービス(修理)を依頼される前に..... 裏表紙
- ◇保証・アフターサービスについて..... 裏表紙

本書中で使用されているマークの定義



危険

財産や身体に重大な被害が発生する恐れがあるもの。



警告

法律に違反する恐れがあるもの。



注意

車輛や製品の破損及び故障等を引き起こす恐れがあるもの。



重要

本製品を使用するにあたって必ず知っておいて頂きたいこと。

安全にご使用いただくために



危険

本体、ハーネスを取り付けの際、ハンドルやシフトレバー、ペダル、その他運転の妨げになる所への取り付けは、おやめ下さい。事故の原因となり大変危険です。

運転者が運転中に本製品の操作を行うことは絶対にしないで下さい。大変危険です。



注意

初期データはセッティングをする為のベースデータですのでノッキングを起こしてしまったり、フィーリングが悪くなってしまう場合は、必ず再調整をして下さい。



注意

本製品の分解や改造は、絶対にしないで下さい。故障や事故の原因となります。お客様が分解や改造を行った場合、保証期間内であっても無償修理を行えなくなります。

製品保証書は、販売店名及び指定事項をご記入の上、大切に保管して下さい。

修理の際には、保証書を必ず添付し、記入もれや販売店の記入がない時は有償となる場合があります。

本体に強い衝撃を与えないで下さい。取り付け時等の落下にご注意下さい。

本体を直射日光の当たる場所や熱のこもる場所、ヒーターの吹き出し口の近くに設置しないで下さい。ケースの変色、変形、製品の誤動作、故障の原因となります。また、ケースの通気口部分をふさがないようにして下さい。

燃料を極端に薄くした状態で走行すると、ノッキングや排気温度が上昇しエンジンの寿命が縮まり、エンジン破損につながる恐れがあります。

減量方向への調整は慎重に行ってください。

本製品に故障又は異常があった場合には、ただちに使用を中止し販売店又は当社まで御連絡下さい。

高負荷走行をされる場合には、プラグをノーマルの熱価より1～2番位上げて使用して下さい。

商品の外観、仕様、価格等、予告なく変更する場合がありますのでご了承下さい。



重要

本製品を使用しての事故や車輛故障、破損、違法行為等については、当社では一切責任を負いません。

機能と特徴

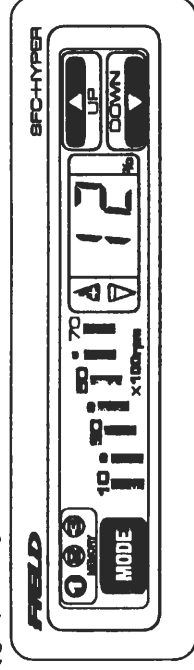
- エンジン回転数(1000,2000,3000,4000,5000,6000,7000)の7ポイントで、1%づつ最大±30%までの調整が可能。
- ノーマルコンピュータだけでなく、チューニングコンピュータにも対応し、車の仕様に合わせたセッティングを実現。
- 抜群の視認性を誇る回転数ポイントインジケータにより、現在の回転数ポイント(リアルタイムモードではバーグラフ表示)及び、セッティングポイント(セッティングモードではポイント表示)が一目瞭然。
- 増減モニターでは、現在の増減パーセントを100回転ステップで、リアルタイムにデジタル表示。(リアルタイムモード)
- セッティングしたデータを、3パターンまでメモリーでき、走行状況に合わせたメモリーの選択が可能。又、異なったセッティングの比較も容易。(マップメモリー機能)
- メモリー2・メモリー3には、あらかじめ低燃費データ、フイリングアップデータをベースデータとしてメモリーしています。初心者でもベースデータをもとに楽々セッティング。
- セッティングしたい回転ポイントで、即座に調整ができるクイックホールド機能。
- セッティングモードで、5秒間スイッチ操作がなければセッティングモードからリアルタイムモードに自動的に戻る、オートリターン機能。
- 軽自動車からGTRまで幅広い車種に対応。
- ターボ車のブーストリミッター解除機能を搭載。(一部車種を除く)
- バッテリー電圧低下による誤作動防止機能や、異常の場合もリレーによるノーマル復帰機能などの安全設計。

モード説明

リアルタイムモード

現在の回転ポイントや増減のパーセント表示をリアルタイムで表示するモードです。

表示イメージ



セッティングモード

指定の回転ポイントで増減の設定を行ったり、メモリーの設定値を確認したりするモードです。

表示イメージ



※両モードの確認はモードスイッチの点灯色により見分ける事ができます。

モードスイッチ：緑色=リアルタイムモード
：赤色=セッティングモード

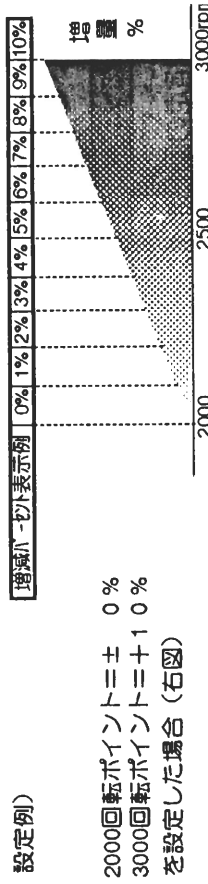
燃料調整原理

エンジンへの燃料噴射量は、エアフロ（圧力）センサーからの信号をもとに、エンジンコンピュータが計算して燃料を噴射します。

SFCによる燃料増減原理は、エアフロ（圧力）センサーからの信号をSFCが変換し、その信号をエンジンコンピュータへ送り、燃料噴射量を変化させます。

SFCがエンジンコンピュータに、ノーマル信号に対し±0%の信号を出力すればノーマル、+30%の信号を出力すれば30%の増量-30%の信号を出力すれば30%の減量となります。

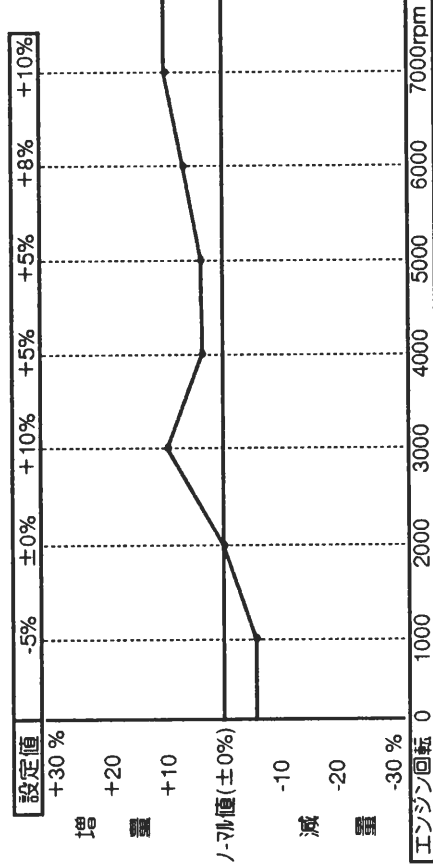
SFC-HYPERでは、1000,2000,3000,4000,5000,6000,7000,7000,7000,7000の回転の回転で燃料調整する事が可能です。調整幅は1%きざみで最大±30%まで設定する事ができます。又、ポイントとポイントの間は、補間により段付きを防止します。



2000~3000回転の間の2500回転では5%になります。

※リアルタイムモードでは100回転きざみで補間のパーセント表示も行います。

SFC-HYPERは以下の様に、より繊細な燃料調整ができます。



セッティングについて

セッティングの目安

通常、ノーマルコンピュータは排気ガス規制と、燃費やエンジンの耐久性等を考慮してある為、エンジンに最適な状態には設定されていません。

更にエアクリナー、マフラー等の交換によってもエンジンの調子は変化してきます。そこでSFCにて、本来の性能を發揮させる為に、燃料補正を行います。

一般的には燃料を適度に濃くすると、トルクが出る傾向になります。濃すぎると回転の上がりやすくなります。又、燃料を若干、薄くすると吹け上がりやすくなる傾向になります。薄すぎるとトルク感がなくなってしまう、場合によってはノッキングが起きるので注意が必要です。メーター等がある場合、目安として最高負荷時に、

NA車で空燃比12~13位、排気温度850℃以下
ターボ車で空燃比10~11位、排気温度880℃以下(ターボ前)
がいいでしょう。

最終的には、"フリーリングが上がったものもいいセッティング"となりますので、セッティングに入る前にノーマルの吹け上がりやMAXトルクの回転数を調べて、自分のエンジン特性や、仕様に合わせたセッティングをして下さい。

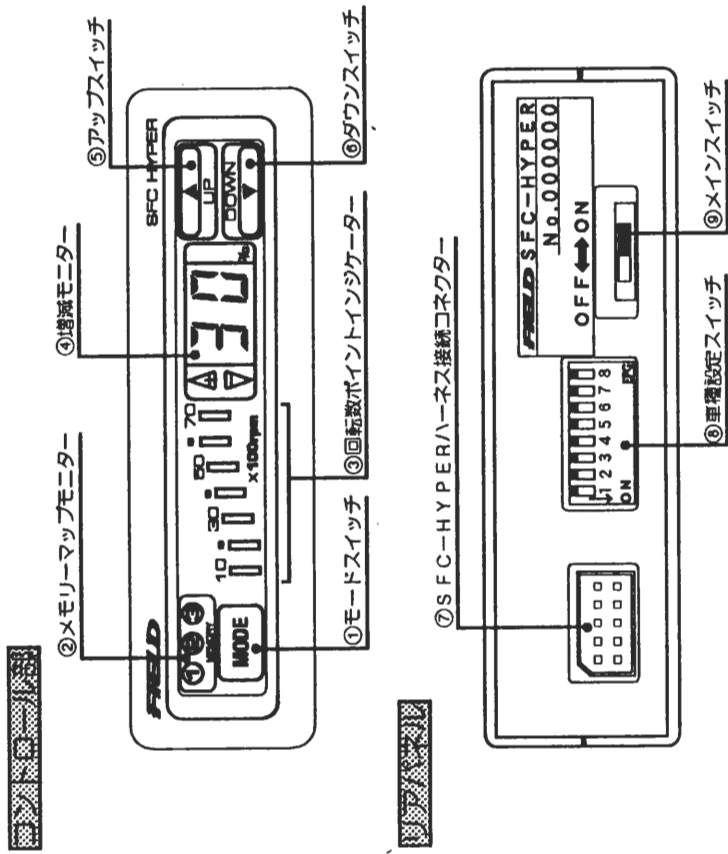
まず最初は、1ポイントの回転数に着目し、そのポイントが、濃い場合と薄い場合を比較して調整方向を決めて下さい。

そして、実際に走ってみてノーマルの感覚とセッティングのした感覚の違いがわかってくれば、もうあなたは立派なチューナーです。



重要
ノッキングや排気温度等の注意を怠ると、エンジン破損につながる場合がありますので、燃料調整を薄い方向にする場合、セッティングは慎重に行ってください。

各部名称と機能



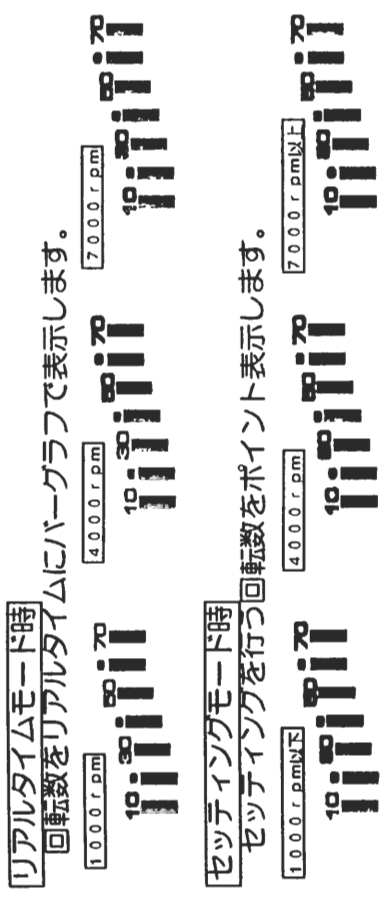
スイッチの表記
 短く押す : 約0.5秒以内
 長く押す : 約0.5~2秒
 押し続ける : 2秒以上

①メモリーマップ
 このスイッチを押している時間によってモードやメモリーマップを切り替える事ができます。

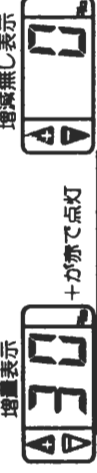
リアルタイムモード時 (モードスイッチは緑で点灯)
 短く押す: リアルタイムモードからセッティングモードへの切替。
 長く押す: 次のメモリーマップに切り替えます。
 押し続ける: ノーマル復帰となります。

セッティングモード時 (モードスイッチは赤で点灯)
 セットポイントを次のポイントに移動させます。
 最後のセットポイント7000で押された場合、セッティングデータを記憶し、リアルタイムモードに戻ります。

②メモリーマップ
 選択しているメモリーマップの位置が点灯します。



④増減モニター
 増減量のパーセント表示をします。
 増減無し表示



リアルタイムモード時
 100回転さまで、ノーマル信号に対しての増減パーセントをリアルタイムに表示します。

セッティングモード時
 セットされている回転ポイントの増減パーセントを表示します。
 数字は点滅表示となります。

⑤アップスイッチ (セッティングモード)
 増減パーセントを+1%づつ増量します。(最大+30%)

⑥ダウンスイッチ (セッティングモード)
 増減パーセントを-1%づつ減量します。(最大-30%)

⑦SFC-HYPERハーネス接続コネクタ
 SFC-HYPER専用ハーネスを接続するコネクタです。

⑧車種設定スイッチ (ディスプレイス)
 このスイッチを設定する事で取り付け車種を判別します。

⑨メインスイッチ (強制ノーマル復帰スイッチ)
 このスイッチをOFFにする事によりSFC-HYPERへの電源が遮断され、内部のリレーが切り替わりノーマルに戻ります。

配線方法

SFC-HYPER専用ハーネスと車種対応表を用意して下さい。

取付手順

- ①エンジンを切り、バッテリーのマイナス端子を外して下さい。
- ②コンピューターの取付位置を確認した後、内張り等を外しコンピューターの車種ハーネスに配線して下さい。

専用ハーネス

- 赤線は1G電源線です。
ピン配図の1G電源の位置にエレクトロタップで接続して下さい。
- 緑線は回転信号線です。
ピン配図の回転信号の位置にエレクトロタップで接続して下さい。

- 黒線は端子付きのアース線です。
ポテターアースのとれるコンピューターステータス等に取付けて下さい。
アースが確実にとれていないと誤動作を起こす原因となります。
車種によっては、ステータスでアースが取れない場合がありますので、
テスター等で確認できれば確実です。



注意

- 茶線(橙線)はセンサー信号線です。
コンピューターのセンサー線を切断し、センサー側に茶線、コンピューター側に橙線を、ギボシ端子で接続して下さい。
センサー信号線は接触不良等を防ぐため、ギボシ端子の圧着は、必ず適正工具で配線して下さい。



注意

- ③配線が完了したら、本体にハーネスを接続し、バッテリーのマイナス端子を取り付け、動作確認に従って下さい。

- ④動作確認が正常ならば、外した内張り等を元に戻し、本体を確実に固定して下さい。

本体を固定する際に、直射日光などが当たる所やヒータの吹き出し口を避け、スリット部を塞がない様、取り付けて下さい。



注意

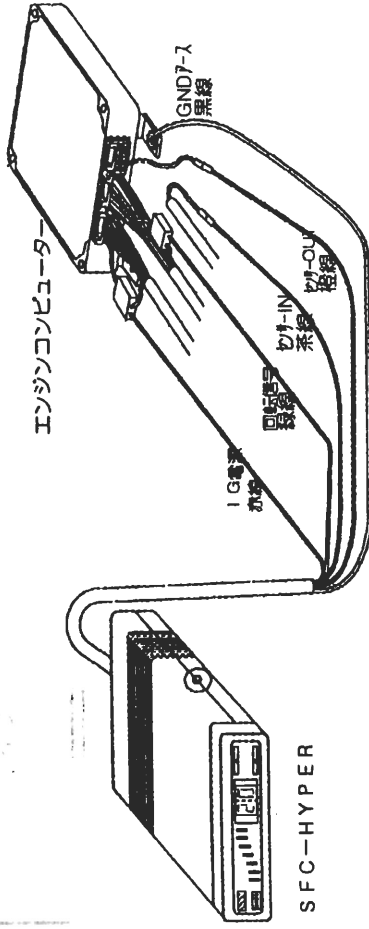
配線のショート等による、エンジンコンピューター破損やSFC本体の破損を防ぐ為、配線を行う時は必ずバッテリーのマイナス端子を外してから作業を行って下さい。



注意

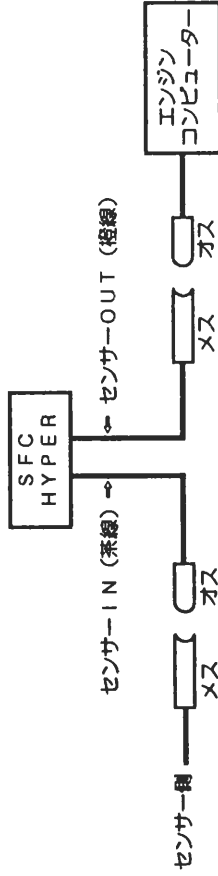
配線イメージ

下図のように配線を行って下さい。各車のコンピューターへの配線位置は、車種対応表を参照して下さい。



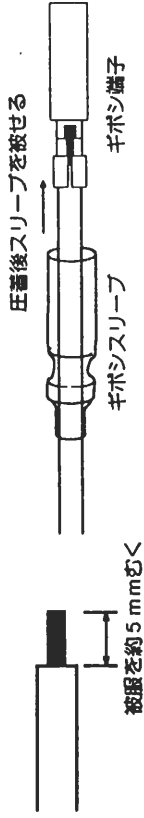
ギボシ端子の取付

センサー線をギボシ端子で配線する場合、以下の順序で行って下さい。



ギボシ取付方法

ギボシ端子は、適正工具を使い以下の方法で行って下さい。



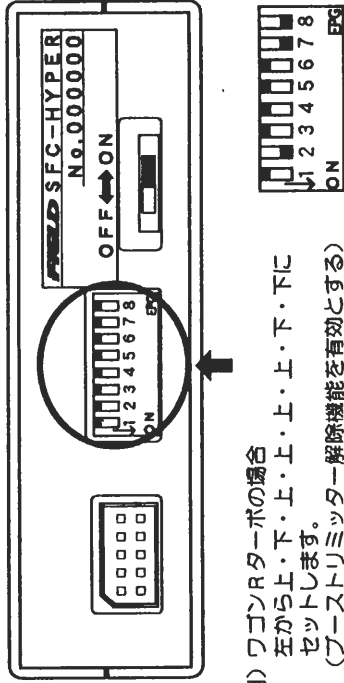
重要

接触不良、配線ミス等があるとエンジン不調やSFC本体破損の原因となります。配線は別紙の車種対応表で、配線位置等を随時確認しながら、慎重に行って下さい。

車種設定

車種設定スイッチの説明

車種により本体背面の車種設定スイッチをセットして下さい。
設定は必ずキーがOFFの状態で行って下さい。



- ①エンジン気筒数の設定 (1, 2) 3気筒 [上上]、4気筒 [上下]、6気筒 [下上]、8気筒 [下下] を設定します。
 - ②センサーの数の設定 (3) センサーの数 [シングル=上, ツイン=下] を設定します。
 - ③センサータイプの設定 (4) センサータイプ [電圧上昇型=上, 電圧下降型=下] を設定します。
 - ④センサーリミッターの設定 (5, 6, 7, 8) ターボ車のブーストリミッター解除やホンダ車のセンサー出力限界値を設定します。
設定は車種対応表を確認の上、確実に行ってください。
注意 ブーストリミッターの解除をチューニングコンピュータで行っている場合は、この設定をしないで下さい。 [下下下下]
- ※ () の数字はディップスイッチ番号、[] はスイッチ状態です。



車種対応表 (別紙) を参照して、必ず動作確認の前にこの設定を行ってください。

重要

動作確認

確認手順

- ①SFC-HYPERのメインスイッチをOFFの状態ではエンジンを開始し暖機を行ってください。
 - エンジンチェックランプ等の警告灯が点灯していない事や、エンジンの調子に変わりがない事を確認します。エンジンを止め、キーをOFFにして下さい。
- ②車種対応表でディップスイッチの設定が、あっているかもう一度確認して、SFC-HYPERのメインスイッチをONにして、エンジンを起動させ下さい。
 - エンジンチェックランプ等の警告灯が点灯していない事や、エンジンの調子に変わりがない事を確認します。
- ③SFC-HYPERのコントローラー本体を見て下さい。
 - モードスイッチ、アップ/ダウンスイッチが、緑色に点灯しているのを確認して下さい。
 - モードスイッチを押し、パワーON状態にして回転数インジケーターターターセント表示が点灯している事を確認して下さい。
- ④アクセルを踏んでいき、車のタコメーターと回転数インジケーターターターがあっている事を確認して下さい。
 - 1000~7000までの回転ポイント表示が同期している事を確認します。
※車輻側タコメータのは、高回転になると誤差が生じますがで異常はありません。
- ⑤実走行をして下さい。
 - エンジンチェックランプ等の警告灯が点灯していない事や、エンジンの調子に変わりがない事を確認します。(メモリー①で確認して下さい)
- ⑥エンジンを止め、キーをOFFにして下さい。
 - 本製品の電源が切れるのを確認して下さい。
 - ※キーをOFFにして、数秒たってからSFCの電源が切れる車種がありますが、異常ではありません。



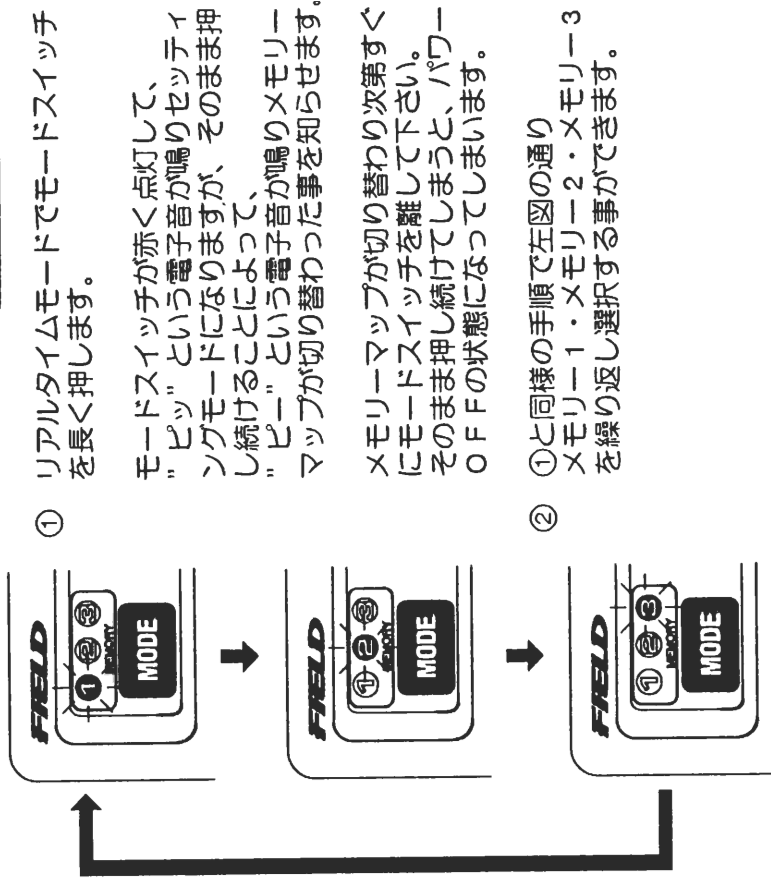
動作確認は、車種設定が終わっていないと正常に作動しません。

重要

基本操作【1】

メモリーマップデータの切替

スイッチの表記
短く押す：約0.5秒以内
長く押す：約0.5～2秒
押し続ける：2秒以上



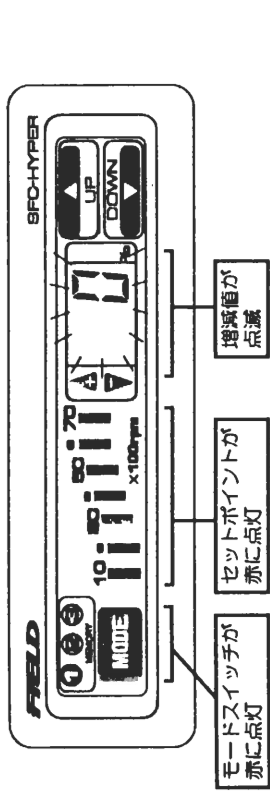
- リアルタイムモードでモードスイッチを長く押します。
モードスイッチが赤く点灯して、"ピー"という電子音が鳴りセッティングモードになります。そのまま押し続けることによって、"ピー"という電子音が鳴りメモリーマップが切り替わった事を知らせます。メモリーマップが切り替わり次第すぐにモードスイッチを離して下さい。そのまま押し続けてしまうと、パワーOFFの状態になってしまいます。
- ①と同様の手順で左図の通りメモリー1・メモリー2・メモリー3を繰り返し選択する事ができます。

※メモリーマップの切替はリアルタイムモードしか行えません。

基本操作【2】

データのセットの方法 (停止時)

- リアルタイムモードでモードスイッチを短く押します。
"ピー"という電子音が鳴りセッティングモードに移り、回転数ポイントインジケータのセットポイントが赤く点灯します。



モードスイッチを押すことに、次のセットポイントに移動しますので、セットしたいポイントまで送ります。

- ②セットポイントが決まったら増減値を設定します。
アップ・ダウンスイッチを短く押すことに、1%づつ増減し最大±30%まで設定できます。
アップ・ダウンスイッチを押し続けると早送りします。



- ③7000回転ポイント迄セットが終了したら、モードスイッチを短く押しリアルタイムモードに戻ります。
"ピー"という電子音が鳴り、モードスイッチが緑に点灯します。
- ④これでセットされたデータがメモリーされました。
エンジンを止めキーをOFFにしてもセットされたデータは記憶されています。

※セッティングモードで、5秒間スイッチの入力がない場合、オートリターン機能が働き自動的にリアルタイムモードに戻ります。

その他の機能

クイックホールド機能

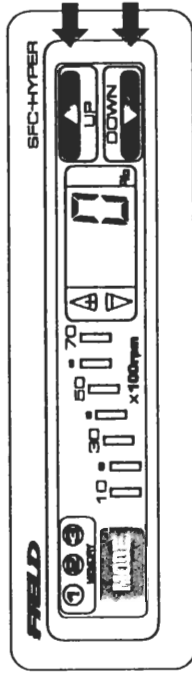
リアルタイムモード時、気になる回転数でモードスイッチを短く押すと、その回転ポイントでセッティングモードとなります。

オートリターン機能

セッティングモード時、5秒間スイッチ入力力がされない場合は、自動的にリアルタイムモードに戻ります。

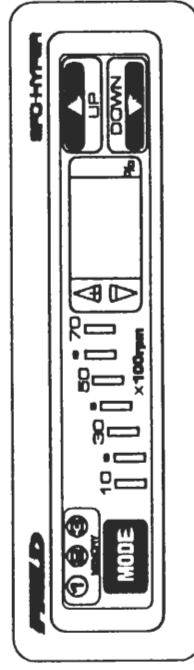
マップインジカルリセット

セッティングモード時、  スwitchを同時に約2秒間押し続けると、そのメモリーマップがベースデータに戻ります。



パワーオフ表示

リアルタイムモード時、モードスイッチを2秒間以上押し続けると、スイッチとバックライトを除く表示が消灯し、リレーが切り替わりノーマルに戻ります。



モードスイッチを再び押すと、選択されていたメモリーの位置で、パワーONとなり、各表示部が点灯します。

ベースデータの説明

SFC-HYPERには初心者の方やセッティングに不慣れの方の為に、データセッティングの近道としてベースデータが出荷時にあらかじめセットされています。

このベースデータを使うことにより、SFC-HYPERの効果早く見つけだす事ができます。ベースデータの変更後は、そのデータを保持します。



ベースデータは、そのまま使用すると不具合の出る車種もありますので、必ず再調整して下さい。

メモリー① ノーマルデータ (各ポイントすべて±0%)

すべて0から始めるマップです。ご自分の納得のいくデータをセットして下さい。又、ノーマルデータとして他のデータとの比較に使う事もできます。

メモリー② エコノミーデータ (燃費をアップさせるデータ)

車の仕様は、ライトチューン(マフラー、エアクリナー交換)を基準としています。ターボ車の場合、ブースト圧はノーマルとします。

走行ステージは街中等で、通常走行を主体とした3000回転付近の減量により燃費の向上をねらったベースデータです。

4000回転以降のポイントは安全を考え、設定は±0%(ノーマル)としています。



アイドリングが低すぎてしまったり、ノッキングがでてしまう車種もありますので、そのような場合は、必ず再調整をしてください。

メモリー③ ファイリングアップデータ (基本的なセッティング例)

車の仕様は、ライトチューン(マフラー、エアクリナー交換)を基準としています。ターボ車のブースト圧はノーマルとします。

走行ステージは、サーキット等の、全開走行を主体としています。調整域も回転ポイント全域に渡り設定されています。

尚、このベースデータのエンジン特性は、4000rpmぐらいの所で最大トルクがくる、高回転型(3気筒や4気筒の2000cc以下)のエンジンを想定したデータですので、車の仕様、エンジン特性、排気量パワーバンド等を考慮して、データを仕上げてください。



メモリーマップの切替は走行中には危険ですから、絶対しないで下さい。

ブーストリミッター解除について (ターボ車のみ)

ブーストリミッターとは

ターボチャージャー (過給器) 付車両は、エアフロ (圧力) センサーの信号が一定の値を越えた時に、エンジンコンピューターがオーバーブーストと判定し、エンジン破損防止の為、燃料の供給をカットするフューエルセーフをブーストリミッターといいます。

メーカーや車種により異なりますが、一般的にブーストリミッターが働いた時には燃料カットが行われる他、エンジンチェックランプが点灯する車種もあります。

ブーストリミッター解除とは

T C-M等のターボ・コントローラーで、ブースト圧を上げていくと、ブーストリミッターが働く車種があります。このリミッターを解除する事でリミッター以上のブーストを上げる事ができます。

※ブーストリミッターを解除しても、T C-M等のターボ・コントローラーを取り付けないとブースト圧は上がりません。

ブーストリミッター解除の標理

ブーストリミッター作動ポイント直前で出力を一定にする事により、リミッターを解除する事ができます。

リミッター表示

ブーストリミッター解除機能の作動中は、回転数ポイントインジケーターがリミッターポイントで緑に点灯し、他は赤の点灯になります。

※SFC-HYPERによる出力限界値 (センサー信号飽和) でも、この表示になります。



注意

リミッター表示になった時点からSFC-HYPERによる燃料増量はできません。

フラップ式エアフロセンサータイプの車種

フラップタイプのターボ車について

以下の車種のセッティングは、このページの内容を熟知してからご使用下さい。

トヨタ

マークII (GX70, 81)	1G-GTE
スープラ (GA70)	1G-GTE
ソアラ (GZ20)	1G-GTE
MR-2 (SW20 M/C前・中期)	3S-GTE
セリカ (ST165・185)	3S-GTE

ニッサン

スカイライン (R30) FJ20ターボ

マツダ

RX-7 (FC3S)	13BT
ファミリア (BG8Z・R)	BPターボ

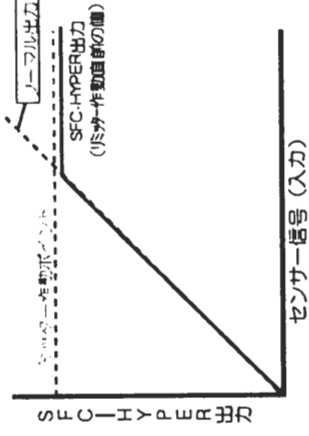
増量方向に設定すると、フューエルセーフ (燃料カット) が働く場合があります。

これはコンピューターが各回転域で吸入空気量の限界値を設けている為に起こる燃料カットです。

この場合、フューエルセーフが働いた回転数ポイントの設定値を下げるしか、この燃料カットを防ぐ方法はありません。

又、気候などの条件が変わっても (特に寒い時など) この燃料カットが起こる可能性は十分考えられます。

以上の事を熟知の上、燃料カットが入らない範囲でご使用下さい。



リミッターポイント



マイナス方向に燃料調整した場合、必ずノッキングや排気温度計等でエンジンの状態を確認して下さい。又、リミッター表示になった場合、それ以上ブースト圧は上げないで下さい。



重要

トラブルシューティング

キーをONにしても電源が入らない。



- ◇専用ハーネスが正しく接続されていない可能性があります。1G電源線にエレクトロタップが、噛んでいるか確認して下さい。又、ポティアースでない所にGND線が付いている可能性もありますので、位置を変えてみて下さい。
- ◇パワーオフ状態になっていませんか。モードスイッチを押してパワーオン（復帰）して下さい。
- ◇メインスイッチがOFFの位置になっていると電源は入りません。

回転を上げてても回転表示しない。



- ◇専用ハーネスが正しく接続されていない可能性があります。回転信号線にエレクトロタップが、確実に噛んでいるか確認して下さい。又、配線を取った位置が違ふ可能性もありますので、角度、車種対応表で位置を確認して下さい。
- ◇パワーオフ状態では回転数表示はしません。

エンジンチェックランプ（警告灯）が点灯する。



- ◇パワーOFFの時は良いが、パワーONにすると点灯する場合はセンサー線のINとOUTの配線が逆になっている可能性がありますので、もう一度センサー線のINとOUTを確認して下さい。
- ◇パワーON/OFFにかかわらず点灯する場合はギボシ端子の圧着不良や、エレクトロタップが噛んでいない可能性がありますので、配線をした接触の確認を行って下さい。

ブーストリミッターが働く。（主にターボ車）



- ◇ブーストリミッター解除の設定を行っていますか。車種対応表を確認して、もう一度設定を確認して下さい。設定があっている場合は、GND線のポティアース部が塗装などで0Vになっていない可能性もありますので、GND線の間所を変えてみて下さい。
- ◇車種によっては、増量方向のセッティングで出てしまう可能性があります。フェューエルセーフが出てしまうポイントの設定値を下げて下さい。

ノッキングが出てしまったり、エンジンの吹けが悪い。



- ◇増減値が極端に濃くなったり、薄くなっていたりしていませんか？必ずセッティングをやり直し、調子の良くなる設定で使用して下さい。
- ◇プラグは適正な燃価を使用していますか？プラグの燃価の低いものは寿命が短くサーキット等で高負荷走行を行った場合、プラグの熱価の低いものは寿命が短くなります。その結果、点火不良を起こしやすくエンジンの調子も悪くなります。

アイドリング付近の回転が落ち込んでしまったり、乱丁する。



- ◇日産車等のホットワイヤー方式のエアフロセンサーの場合、センサーが敏感で吸入効率の高いスポーツリニアーターを入れると、センサーに汚れが付着しやすくなります。その結果、アイドリング付近の低い信号が正常に出られなくなってしまいます。この状態で燃料調整を行うと不具合の原因となります。
- ◇リニアーターの交換や掃除、ホットワイヤーのクリーニングなど、メンテナンスをして下さい。

リアルタイムモード時、回転数ポイントインジケータが赤くなる。
（リミッター表示）



- ◇エアフロ（圧力）センサーの出力が限界値（飽和）に達した事を知らせています。その為、それ以上の燃料増量はできないので注意して下さい
- ◇ホンダ車に増量方向のセッティングをした場合、この表示になる事がありますが、センサー信号の限界値が低い為起こる現象です。この表示は出ませんが、

回転数インジケータがタコメーターと合わない。



- ◇極端に合わない場合、車種設定スイッチが間違っている可能性があります。車種対応表を確認し、見直しして下さい。
- ◇メーター誤差の関係上高回転になる程、表示の差は出てきます。